

vol.65 2026 春号 源流からのたより

ぽたい!

源流のひとつく

紀の川の恵みでつながる仲間たちと……

Key Word

- 引っ張りだこ
- 自然とのふれあいを通して
- 6分野の専門家が一堂に集い・語る!!
- 地域の誇りとして継承していく
- 山の神 ～暮らしに息づく畏敬の念～
- 源流域の保全に向けて

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

森と水の源流館

奈良県吉野郡川上村大字迫1374-1
<https://www.genryuu.or.jp>

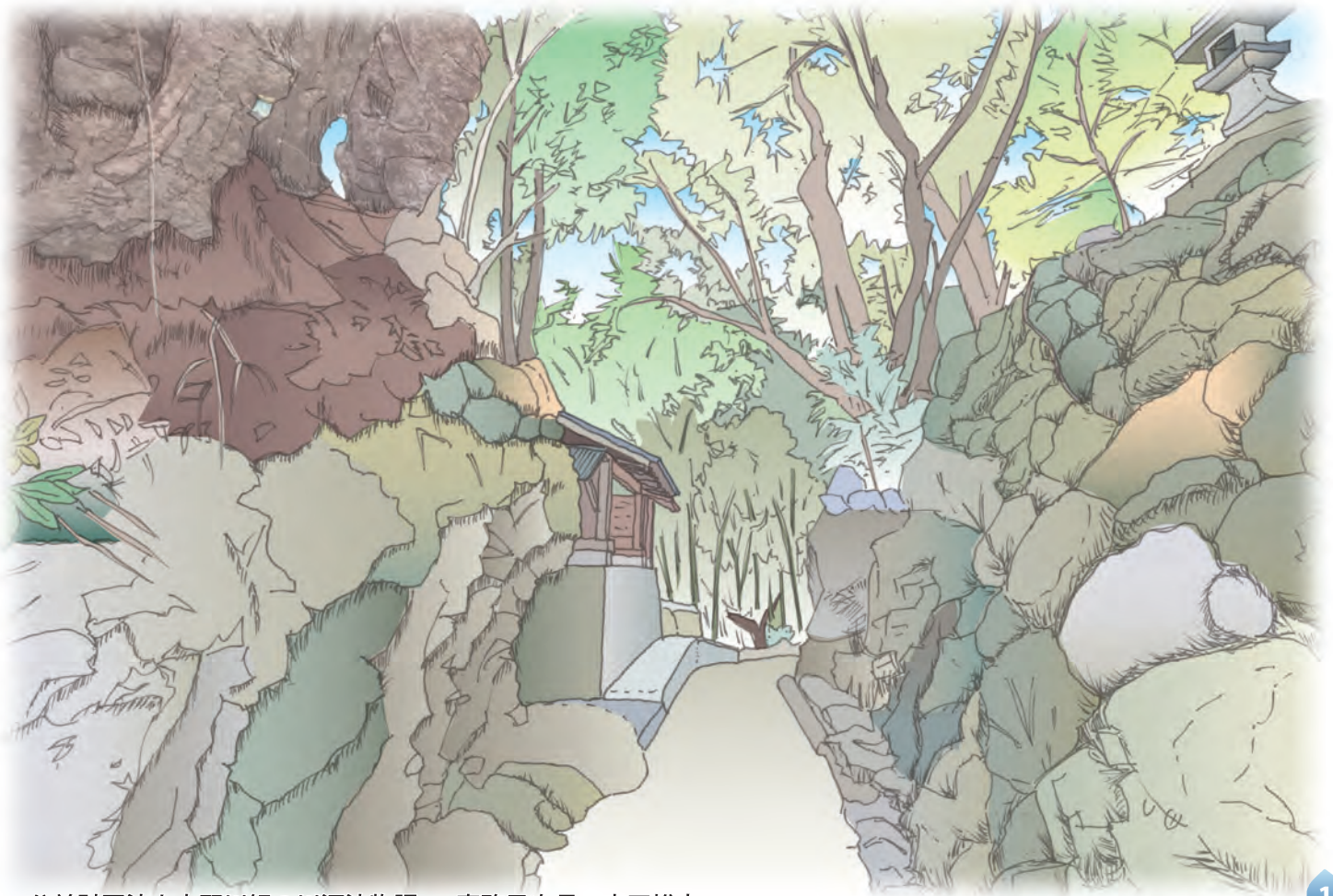
引っ張りだこ

民俗行事「鈎引き（カギヒキ）」は、伊賀から伊勢や近江にかけみられる神事で、年の初めに豊作を祈願する農耕儀礼・山の神行事の一環としておこなわれています。

これは、ウツギ（卯木）を鈎状に伐り、山の神の神前に渡した注連縄に、この鈎を引っ掛けて引っ張り、山にいる山の神を里へ迎え入れる（引き寄せる）行事で、山に寄り添い暮らす川上村の山の神とはようすが異なります。

しかし、いずれにしても山の神さんは地域の恵みや安全を守ろうと、引っ張りだこです。

当館も、多くの人から求められ、あちこちから声がかかって、川上村や流域の課題解決へと地域に寄り添いながら、さらに動いて、つないで、引っ張りだこになるよう、努めてまいります。





奈良ダイハツ株式会社
代表取締役社長

かいほ りきや

海保力也さん



自然とのふれあいを通して

“人間性豊かな魅力ある人づくり”をモットーに
「社員」「お客さま」そして「地域社会」

それぞれに対し、感動と信頼を創造することを目指す



未来への風景づくりのようす

地域のために役立つ
社員全員が主人公になってほしい！

企業としては、村の活性化に向け様々な支援の形が考えられるが、いずれにしても社員の達成感につながるものでなければならぬ。

我が社としては、お客さま本位の業務運営に関する方針として、「社員」「お客さま」そして「地域社会」それぞれに対し、感動と信頼を創造するとともに「お役立ちを究める」ことを目指しており、社員全員にはその主人公になってもらいたい。

都市に水の恵みがあるのは、水源地域のおかげであり、奈良を地盤とする我が社にとって吉野川源流の川上村が、豊かな恵みを与えてもらっている一番身近な地域である。

その地域を訪れ感動し、感動を価値（やりがい）に替えて、村民とも喜び合う、そんな「ストーリー」を演じる配役となって、明るく、いきいきと働ける環境と風土づくりを追求していく。そんなビジョンで、これからも「都市」と「源流」をつなげていきたい。

川上村が「川上宣言」を全国に発信し、30年目を迎える年となりました。

当財団では、この具現化に向けた「水源地の村づくり」や「水源地の森」の価値を伝え、関わる方々といきま。そのような中、社員研修で水源地の森や森と水の源流館を訪れ、当財団の森守募金にもご協力をいただいている、奈良ダイハツ株式会社海保社長に、その思いをお聞きしました。取材を通じ企業の経営理念と来村目的を合致させ人材育成につなげている取組にあらためて感謝しました。

きっかけは小さな提案から
川上村の活性化のために何かしたい！

奈良ダイハツが川上村と出会うきっかけは、村からの声かけによる「未来への風景づくりプロジェクト」への参画。主旨に賛同し、加盟企業として毎年社員研修を兼ねた除草活動で白屋を訪れることになる。活動を進めるなか、村の活性化に関する提案の場に参

加するなど、村づくりの視点で考えるようになる。そして村民との交流の場として企画された「ふれあいまつり」に出店、最初は出店しているだけの意識から、村民に喜んでいただき、ふれあいを通して得た利益をさらに村に還元したいとの思いに!! 「水源地の森」は、社員教育の場として素晴らしいが、オーバーツーリズムになり汚れるようなことがあっては困る。そこで、この利益を森守募金に充てることにした。

命の源である水の大切さ
それを育む森を感じてもらいたい！

「奈良ダイハツ健康宣言」にも示すように、我が社は「価値を創造し、感動を育み、人間性豊かな魅力ある人づくりを実現するため、健康と安全を最優先にしている。そのため、命の源である水の大切さ、それを育む森の大切さを社員に伝える一方で、頭で理解しても実際に都市（まち）に居ると、ふれあえる機会がない。なのでその一滴の水を生む原点である「水源地の森」を社員研修の場とするのは必然であった。



水源地の森での研修のようす

川上村での研修では、いろいろな気づきを与えるきっかけになればいいと考えており、環境の意識を強制するのではなく、本人の気づきを通じて芽吹いてもらうことが理想で、結果、人間性豊かな魅力ある人づくりにつながっていくといいと考えている。まだまだ効果として具体的に示すことはできないが、日々の業務では活かしてもらっていると信じている。



公益財団法人吉野川紀の川源流物語（森と水の源流館）では、村や流域にかかわる課題解決につながるよう、計画や実行内容の根拠となる実情を把握するため調査活動を実施しています。

また、その調査結果が当財団の内部資料に留まることなく、広く共有し、一緒に活動できる連携体制につなげるため、年1回報告会を開催しています。この機能をより拡充すべく、これらの活動方針を紹介します。

報告内容の詳細は
森と水の源流館
ホームページ参照



水源地域及び流域における民俗調査・林業遺産調査

「山の神」神事に関する研究
森林科学 ◆京都大学農学部森林科学科
助教 内藤 大輔 氏

大阪工業大学・川上村連携事業
地域文化遺産の保護を目指した
3Dデータの構築手法と現状報告

情報科学 ◆大阪工業大学情報科学部 実世界情報学科
教授 荒木 英夫 氏、同院生 森松 奎伍 氏

<報告頂いた6分野の専門家の皆様>

「吉野川源流－水源地の森」自然生態調査

吉野川源流域におけるカジカ大卵型の生息状況
魚 類 ◆摂南大学農学部応用生物科学科
講師 國島 大河 氏、同学生 阪下 海斗 氏

「吉野川源流－水源地の森」自然生態調査

川上村、水源地の森で確認された外来イワナの現状について
魚 類 ◆和歌山県立自然博物館 主幹 平嶋 健太郎 氏

水源地域及び流域における自然調査

葛城・金剛山麓における里山保全の取り組み
里山保全 ◆NPO法人さとやまから 理事長 杉浦 英二 氏

【総括】**森林生態学** ◆龍谷大学先端理工学部環境科学課程
准教授 横田 岳人 氏（公益財団法人吉野川紀の川源流物語理事）



<保全メニューの改善>

▲検証結果をふまえ、より効果的に課題解決につながるよう、村のニーズと十分整合を図りながら、保全メニューの改善を繰り返し



<モニタリング>

▲森と水の源流館では、村の各機関や様々な 専門家とともに調査とあわせ水源地の森等のモニタリングを実施しています。

- ・防鹿柵の効果
- ・天然林の再生状況
- ・主な生き物の状況など

吉野川源流域の自然環境を次世代につなげることは、水のめぐみにより豊かな暮らしを続けていく我々川上村はもとより、流域にとって不可欠です。

森と水の源流館を拠点に、保全活動を応援してください！



<ご指摘頂いた主な課題>

- ▲上流に生息する魚類は、わずかな環境変化に敏感に反応し個体数減少などにつながる
- ▲吉野川源流域のシンボルとしてカジカを保全したい
- ▲外来イワナが三之公で見つかり、生態系を壊す前に対処が必要。原因を特定するため要継続調査
- ▲里地が生き物の生息場所になり、この多様性が豊かな恵みを生むので、手入れは大切
- ▲里山保全作業を、みんなが主役になれるようプログラム化して、川上村や他の地域と「源流」というキーワードでつながりを広げたい
- 山の神をはじめとする培われてきた民俗文化は、林業の不振、高齢化などにより継続が難しいが、問題点を整理し次世代へ引き継ぐべき
- 民俗文化を継承するためデジタル技術によるサポートは可能であるが、具体的なニーズは村から発信してほしい

<保全メニュー>

▲提示された課題解決にむけ、源流人会会員を含め、多くの仲間に関わっていただき、保全メニューを展開



体験学習

環境保全プログラム

森づくりプログラム

<継続中の事業>

- ▲危険木の除伐、林内整理
- ▲防鹿柵の設置、外来種の駆除
- 民俗文化の聴き取り、資料・教材化
- 伝統行事への参加・協力、郷土料理の記録など



川上村地域おこし協力隊員
＜源流人会会員＞小林 早恵さん

水源地の森環境学習ツアーをきっかけに、源流人会に入会いただいた小林さん。川上村で営むいくつもの柿の葉寿司店で、時には早朝5時から柿の葉寿司づくりを学んでいます。また村の特産品イベントで販売促進にも奮闘し、当館主催のイベントでは村内8店舗の柿の葉寿司の食べ比べや販売もしていただきました。いずれは、本人レシピの柿の葉寿司で出店されるのが楽しみです。

奈良好きで地元・東京から何度か訪れるなか、川上村の地域おこし協力隊（柿の葉寿司ミッション型）に！当館事業“郷土料理～川上村の食文化の保存と利活用”にも協力いただいている

さて、今回は——
とも／に／
いきいき輝く
活動をご紹介

小林 早恵さんと

衝撃の原点

川上村の地域おこし協力隊として着任し、真っ先に受けた役場研修。そこで私は、大滝ダムの歴史と「川上宣言」の重みに触れました。下流の命を守るために、自ら森を守り抜くという揺るぎない姿勢。外から来た私にとって、単なる自然保護の話だけではなく、この村が背負ってきた決意と覚悟が胸に突き刺さりました。「水源地の村」で暮らすということは、その歴史と意思を引き継ぐことなのだ、と、身が引き締まる思いをしたのを覚えています。

正直な壁と、手にした「鍵」

その精神の拠点である「森と水の源流館」ですが、最初は正直なところ、少しの「入りにくさ」や「小難しさ」を感じていました。専門的な展示が並ぶ空間は、初心者には少し敷居が高く見えたのです。しかし、村が守り続けてきた「水源地の森」という聖域へ入るためのパスポートを手にした一心で、私は「源流人会」に仲間入りしました。入会後、念願のツアーに参加して驚いたのは、県内のみならず県外からも多くの方が参加されていたことです。子どもから年配の方まで、幅広い世代が期待を胸に集まっていた。道中は雨の心配もありましたが、幸いにもひどく降られることは無く、しっとりとした空気の中で珍しいカエルやキノコなど、多様な動植物の生態を観察することができました。自分の足でその土を踏み、生命の輝きを間近に感じたことで、研修で学んだ「誇り」が、理屈ではなく実感として私の中にすくと落ちてきました。

本物に触れる贅沢と循環

森での体験を経て再び源流館を訪れると、景色が変わって見えました。大迫力のスクリーン映像や貴重な史料、大きな水槽で泳ぐ魚たち、そして何より専門スタッフの方々の深い知識。私が活動の中で知った、大和平野から感謝と共に届く「おかげ米」の存在も、この森を守ることが食の循環に繋がっていることを教えてくれました。



水源地の森環境学習ツアーでみつけた、雨上がりの瑞々しいコケや落ち葉、ドングリやキノコたちに感動!! (本人撮影)

学びが深まるほどに、当初感じていた敷居の高さは、もつとこの場所を頼りたいという「入りやすさ」へと変わり、今では私にとってなくてはならない学びの拠点となっています。

森と仲良くなる未来へ

これからは、この源流館のワクワクするような専門性をもっと身近に、みんなで体験できる機会が増えたら嬉しいですね。例えば、スタッフの方と一緒に楽しむバードウォッチング。森を知り尽くしたプロの案内で鳥の声を澄ませ、自然ともっと仲良くなれる時間があれば良いと思います。

「源流人会」という鍵を手に、皆さんでこの村が誇る豊かな物語の当事者になってみませんか。まずは、あの森の空気を感ずることをおすすめします!!

郷土料理の「い」学び中!!

【めぐる季節、つなぐ手しごと】という集まりを通して、川上村に伝わるふる里の味を、次世代へつなげる一助になれたらと思い、今春より少人数の集まりを始めようと思っています。郷土料理を囲み豊かな時間を一緒に過ごしませんか？ 関心ある方は森と水の源流館までお問い合わせください。

時とつながる

山の神へ暮らしに息づく畏敬の念へ

山に生きた吉野地域の人々が祀る「山の神」は、山や森への信仰の形として息つき、日本遺産「吉野」の構成要素の一つになっています。

川上村でも全集落に1〜数か所の山の神が祀られ、年1〜3回程度のお祀りが行なわれています。この信仰が現在まで受け継がれてきたことは大変意義深く、「山に畏敬の念を持ち、自然との共生をはかろうとする文化」は、2016年に村全体がユネスコエコパークに指定された評価の土台と言っても過言では無いでしょう。

山で働き、暮らす人にとっての山の神

「山を敬う気持ちが一番大事。自然をないがしろにしたら大変なことになる」当館元館長・辻谷達雄さんの教えます。吉野林業が育む豊かな森林資源の恩恵に支えられてきた川上村には、暮らしの中に生じる感謝の念を「山の神様に生かされている」と表現する特有の自然観があります。信仰を引き継ぐ人たちは「ただ手を合わせとるだけや」「行かれんけど、餅くらいは供えさせてもらわんとな」などと謙虚に語ります。「山の神の日」のお祀りは、山への感謝を捧げ、安全を願う大切な節目です。山に入ってはいけない日であるため、山仕事が確実に無く、皆がそろった日としても貴重です。

川上村の山の神 集落ごとの多様性

面白いことに、川上村では地区によって祠で祀る、特定の太木や岩などをご神体とする、お祀りに独自の飾り付けをするなど多様な祀り方があります。また個人や仲間内で山の神の祠を立てて祀る例も見られます。形は違っても、林業従事者はもちろん、山に寄り添い暮らしを営む人が抱えてきた、山への計り知れない感謝と畏敬の念を感じます。

お祀りの日の朝一番に参拝した後は、お供え物を下げて、家族団らんや直会（あるいは宴会）などをしました。つながりを確認する社会的にも大切な日でもあるのです。暮らしの一部として山を敬う真っ直ぐな祈りがあって、今も川上村の森は守られています。



上流部では磐長姫（容姿の醜い女性の神）を祀る場所が多く、山の神の日に女性が参るのを控える風習がある。（伯母谷）



下流部では大山祇神を祀る場所が多く、山の神の日に男女ともに参る風習がある。（迫）

11月7日（土）三之公「山の神」でお待ちしています！

当館では水源地の森の入口、三之公「山の神」にてお祀りを続けています。11月7日（土）は一緒にお祀りしましょう。山のお話や、山の神を継承する村の方との交流などを予定しています。（しきたりによりこの日は、山には入れません。）



山への畏敬の念／吉野川源流－水源地の森／日本遺産「吉野」／ユネスコエコパーク／吉野林業／生物多様性

こんなキーワードに関心を持たれた方必見！！

大切な森と水を次代に残し、源流の文化を継承していくために、様々な保全メニューに取り組んでいます。みなさまのお力をお貸しください！

暮らしに息づく山の神の継承に向けて

信仰は、モノや映像などの「形」として残せるものではありません。祈りを途絶えさせないことが重要です。林業の衰退に伴い、山との接点が失われつつある現代、過疎・高齢化も拍車をかけ、祀るのが難しくなってきたところもあります。

そのような中、京都大学の学生が卒業研究で山の神をテーマに取り上げるとい嬉しい出来事がありました。集落での調査に協力・同行すると、私たちがまだ知らない山の神の知られざる世界を垣間見ることができ、現場の課題も聞かせていただきました。



1950年には人口の約14%（908人）が山林労働者でしたが、2005年には約3%（68人）に。ほとんど林業関係者しか居る人がなくなりました。

「山とのつながり」をいかに維持していくかが課題です。

吉野川源流-水源地の森(740ha)



吉野川(紀の川)源流に残された、手つかずの天然林。先人たちが遺してきた自然と意思をしっかりと受け継ぎ、未来へ手渡していくために、この森では最小限の手を入れることを方針として守っている森です。

源流域の2つの森が
私たちのフィールド

源流学の森づくり(34ha)



かつて「水源地の森」と同じ天然林で、大規模に伐採された跡地を林業に従事してきた人や山と共に暮らしてきた人に習い、藪の状態のから多様な森として再生することを目指して実験的に手を入れています。

フィールドで何が起きている？

水源地の森は手つかずの価値を優先してきましたが、ニホンジカの増加、下層植生の衰退など生態系のバランスが崩れてきていることが問題となってきています。

源流学の森は手入れによって樹林が回復しつつありますが、森へ向かう道中が、度重なる土砂崩落によって通行が困難な状態になっています。

私たちの取り組み

水源地の森環境学習ツアー

森は恵みの雨をたくわえ、川をつくり、紀の川流域のみならず、大和平野の生活に潤いを与えます。この命の源ともいえる水源地の森の大切さを知り、ともに保全していく仲間づくりを目指し、源流人会会員を対象に環境学習ツアーを実施しています。

水源地の森自然実態調査

他機関や大学の研究室と連携して水源地の森の自然実態調査を行い、保全や課題解決に向けた基礎的な情報を収集しています。調査結果を森と水の源流館の展示や調査報告会で発信しています。



移動式防鹿柵の設置・補修

生態系の一員であるニホンジカを完全に排除するのではなく、状況に合わせて設置場所を変えられる小型防鹿柵の設置を進めることにより、ニホンジカの食圧も利用しながら生態系のバランスを保つ取り組みを試験的に実施しています。

源流学の森づくり体験会

「源流学の森」をフィールドに、今後どのような森にしたいのか、どんな風に森とかかわっていけばよいのかを崩落現場の見学、森の維持・管理体験を通して学びます。環境保全について共に考え、行動する源流人会の仲間づくりの機会にもなります。

和歌山市からの応援

川上村と和歌山市が2003年に締結した「吉野川・紀の川水源地保護に関する協定」に基づき、「和歌山市民の森」(3ha)を設け、市民の方を対象に森林環境教育の場として活用いただいています。



ボランティアによる森林管理

川上村と関西電力労働組合が2012年に締結した「森林保全活動に関する協定書」に基づき、「閑労かわかみの森」(1ha)で組合員さんに除伐や林道補修を行ってもらっており、ボランティア活動の理解促進や研修の機会にも活用いただいています。



みなさまからの応援をお待ちしています！

募金へのご協力ください！

みなさまからお預かりした募金は、「水源地の森」をシカの食害から守る試み等の森を守る活動もしくは、子どもたちの森での体験を支援するなどの啓発事業に充てています。

郵便振替 00950-2-332164
水源地の森守募金あて



未来の森を守る
仲間の証し

源流人会へご入会ください！

本紙3から6ページで紹介のプログラムに、みなさまのできるところからご参加いただき、楽しく学んで、いっしょに活動しましょう。

3/28(土)
オンライン説明会開催

